

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



ザ・イザコザ!〜「イザコザ」のススメ〜

左の3人（イメージ写真）は、何をしていますでしょうか。手に持っているのは、車のオモチャ。積木を斜めにして、坂道を走らせようとしています。右端の男子は何をしていますでしょうか。写真から判断すると、座り心地の良い乗り物のシートか何かのイメージで、お尻をすっぽり入れてご満悦？です。さて、この後このあそびの場面ははどのようなでしょう？ちょっと想像してみましょ。思いやしいことイメージが全く違う子ども同士が、同じ場で遊んでいると、特に3歳さんなどは、遅かれ早かれ「〜そこどいてよ!」「〜せんでよ!」と言い合いになります。さあ、「イザコザ」の始まりです。（心の声：「よし!来た!」）

子どもたちは自分の思うようにならないと、大人に何とかしてもらおうとします。ここで大事なことは、しっかりと当人同士の「イザコザ」にすることです。相手と向き合わせることで、「イザコザ」が成立すると、保育者は「どうしたかったの?」「どうすればいいのかな?」自分の思いを伝えさせるのと同時に、相手の気持ちを聞いて「わかる（共感）」ようにします。「〜くんだったらどう思う?」「先生もきっと同じ気持ちになると思うな」などと丁寧に対話し、人の「気持ち」という目に見えないものの存在に気づかせていきます。双方の受入が良ければ、解決策や譲り合いの方法を考えさせたり提案したりして、実行するところまで見守ります。こうして、日々「人とかわる力」は「イザコザ」によっても育まれているのです。だから実は「カモン!!イザコザ」なのです。



昨年、タネから育てた「ももいろたんぼぼ」の花は、ご覧頂けましたか？ タンポポだけに、最後は綿毛をつけて、種は風に乗って飛んでいきます。その前に種を収穫しました。今年の十月頃に植えれば、来春、また花を見る事ができます。タネがいくらか取れましたので、家庭で育ててみたい方にはお譲りします。（六月十日以降、職員室まで声をかけて）

「ももいろたんぼぼ」のタネはいかが？

さて、私の置かれた環境は、幼児期に必要なことも大事なものを含んでいたと思えます。私は自然や芸術への関心が高い方ですが、それは幼児期の環境によって育まれたのかも知れません。しかし、今の子どもたちを、私と同じような環境下で育てるのは不安です。昔と今、そして未来では、生きていくために必要な「力」が違ってきているからです。私たちが今、目の前の子どもたちが生きていく20年後の未来を容易には予測できません。子どもたちが大人になった時、一人前の社会人として自立して生きていくためには、一体どんな「力」が必要なのでしょう。一つだけはっきりしているのは、これからの予測不能な社会に「柔軟に適應できる人間」に育てなければならぬということです。そしてそれは、どうやら幼児期の教育から始めるべきだということです。教育は日進月歩です。

※「最近、社会の変化を語るべきとき、ソサエティのO」と言う言葉を耳にします。教育もこれを念頭に置いた国レベルの改革が本格化しています。私たち教育に携わる者と子どもを育てる保護者は、今後一層、情報を共有し、進むべき方向を見定めながら力を合わせていく必要があると思えます。

※は次号で解説

幼児教育の「質」についてよく議論されるようになりました。私に与えられたのは、今と比べものにならないほど貧しい「幼児教育」であったでしょう。しかし、曲がりなりにも、今自分はこうしてここにいます。この私の「三つ子の魂」をつくってくれたのは、ふるさと自然であり、見守ってくれた祖父母であり、限られた時間の中で深く関わってくれた両親であったと思えます。祖父母も父も今はいません。幼児教育の大切さを知った今だからこその言える感謝の言葉を、直接伝えられないのが残念です。（おわり）



私を育ててくれたもの(その3)